

## 大橋鮮魚店



代表 大橋考治

お魚屋さんですが「町の冷蔵庫」として良き倉庫番になろうと思っています。献立や調理法などお困りの際はご相談ください！

広川町大字久泉 956-7  
☎ 0943-32-2000  
設立 / 2022年10月  
事業内容 / 鮮魚小売業

### 創業のきっかけ

子どものころから料理が得意で、高校生の時に調理師免許を取得し、卒業後は割烹料理屋に就職しました。そこで魚をさばくのが好きになり、スーパーや道の駅などの鮮魚店で経験を積み「地元でお店を持ちたい」という思いが強くなり、独立を決意しました。

### 創業塾で学んだこと・創業補助金の活用

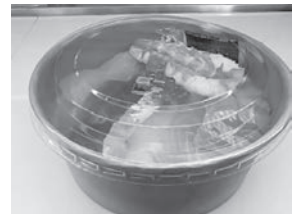
事業計画や融資までの手続き方法、独立後のお金に関する知識など、会社員のころでは深く考えていなかった部分まで創業塾でサポートしてもらいました。

### 今後の展望

今後は、お昼のランチやバーベキューメニューの提供も予定しています。広川町唯一の鮮魚専門店として、新鮮な魚を提供していきますので、ぜひお越しください。



▲刺身 500円～



▲海鮮丼 900円

# 広川文芸

## ひろかわ俳句会



てっぺんのカラス陣取る冬木立  
少子化の進む里なり梅の花  
夫の去ぬくらし慣れぬと梅だより  
絵手紙や亡母のくせ字と春の花  
曇天や黄沙ともなふ寒の入り  
濁りなき水の流れや冬の川  
ひと葉ごと雪を盛りたる庭木かな  
幼児のなぜなぜなぜに初笑  
湯けむりにかすむ樹氷や阿蘇の景  
一面の雪に向かいて先づ一步  
ポケットのマスクの出番立ち話  
咳一つ皆の眼吾につきささる

## 櫻の会

強雪風雪を降らして過ぎる中内科検診ぶじに終りぬ  
庭先の裸木となりし林檎の木冬の九州耐へがたきかな  
三度目のペースメーカー取り替へて九十五歳伯母高笑ひ  
豆をまく娘等は菓立ちて老ふたり今宵の鬼は誰が追ひくる  
大寒波健気に咲きし水仙は雪に負けたか葉のみと成りぬ  
花の無き梅百本に冬の陽はまあるく降りて蓄うながす

野中 勝美  
中倉 明美  
一瀬砂智子  
山崎美代子  
瀧武美智子  
青木佳代子

渡辺 弘子  
酒井 司  
柴田 真理  
原口あつ美  
野中 勝美  
青木佳代子  
水本 辰次  
福田美知子  
原口 正信  
結末 節子  
水本 艶子  
一瀬砂智子

# 南北朝時代の郷土 その15

～懐良親王と高良山～

懐良親王が度々拠点とした  
高良山

高良社（高良大明神）は、天平勝宝元年（749年）に宇佐八幡社にその地位を譲る迄は、九州の惣廟（そうぼう）でした。社の運営は九州一円の課役（かえき）（『高良記』に記されることが、国立民俗博物館所蔵文書でも証明）となっていました。そのような由緒の神社の故でしょうか、懐良親王（以下親王と略）も、度々この地を拠点として活動されています。

「観音経普門品」の書写奉納

親王が菊池にたどり着かれたのが正平3年（1348年）4月のこと。まっ先に高良社に「観音経普門品」を奉納されています。時に親王は19歳。右経典は明治に入ってから排仏毀釈の混乱の中で山を降ったのでしょうか。現在も某寺に伝世しています。

高良社の社殿造営と遷宮の  
下知と社参

『高良記』には、親王が2度にわたって社殿の造営に関わるとともに、遷宮を下知したことが記されていますし、「鏡山文書」にも残っています。

す。不思議なことに高良社関係の文書では、親王のことは懐良ではなく兼基と出ます。

正平16年（1361年）、大宰府に征西府を設置の後、翌17年6月（光浄寺文書）と同20年4月（阿蘇家文書）の2度の社参を、確認することができます。

祇園山古墳を改葬か

祇園山古墳（高良山中腹に在り、卑弥呼の墓説もある）の墳頂にはかつて、正平22年の年号と沙門長弁と刻む、地藏菩薩来迎圖像板碑（現在県指定文化財）が立っていました。この古墳は、高良社大祝職鏡山氏の祖である日往子命の墓ともされるものです。正平22年は、高良大明神鎮座1千年という節目の年でした。どうやらこの時に古墳の改葬が行われたらしいのです。その際に出土したという三角縁神獸鏡こそが高良大社に伝世する宝器の内侍所の鏡と考えられています。

このような大事業を指揮できた人物としては、当時の征西將軍宮しか考えられませんが、南朝のさらなる隆盛を、高良の神に憑んでの改葬では

なかつたでしょうか。

征西府陥落後は高良山御在所

文中元年（1372年）8月高良山に撤退した後、親王は御在所を構えて3か年滞在されます。その前後には、大善寺玉垂宮絵縁起の修復（建徳元年、1370年）や、高良下宮社への願文の奉納（天授3年、1377年）なども、記録に留むべき事績です。

高良山一帯には親王に関する扇橋・楢屋敷・保命水（勝水）など、伝承地名が少なくありません。親王を主人公とする、南北朝時代の濃く凝縮された歴史が、しっかりと残っています。

これまで15回にわたっての連載でしたが、私たちの身近にも南北朝時代の歴史がたくさんあることを知っていただければ幸いです。（完）



▲高良大社の宝器の一つである内侍所の鏡（三角縁神獸鏡）伝祇園山古墳出土。

## 広川町古墳資料館だより

今年1月に久山町で古墳時代の完形の土鈴が発見されました。

古来、鈴の音には魔よけや厄除けの効果があると考えられてきました。町内でも一條・森園遺跡では「有鈴高杯」（仮称）が古墳時代の住居から出土

しています。脚部の空間部を閉鎖して、中に小石を入れているようです。高杯を持って振ると、カランカランと音がします。当時の人たちは鈴の音に特別なパワーを感じていたのかもしれませんが。



▲一條の森園遺跡で出土した有鈴高杯